

研究室概要

「植物病理学研究室」では、安定した安全な食糧供給を目指して、農作物の病気の防除、特にウイルス病に関する研究を行っており、ウイルスの遺伝子解析や新しい検出法の開発、分子生物学的・遺伝子工学的的手法による耐病性植物の解析・作出やワクチンウイルス（弱毒ウイルス）の開発などを行っています。

Welcome to 研究室&ゼミ



学生から

僕たちの研究室は20人ほどで、日々ワイワイと実験に励んでいます。メンバーは皆個性的で優しく、また、先生方の知的なユーモアにより研究室ではいつも笑いが絶えません。実験では失敗することもあります。今まで何とかやってこられたのは、仲間がお互いに気にかけて、支え合う環境があるからだと思っています。



修士1年 半田 翔也

研究成果を論文として発表できるとインターネットに論文が掲載され、いつまでも自分の名前が残る！そして、世界の人たちが読んでくれる！これってなんだかワクワクしませんか？これも、研究の一つの面白さだと思います。

『少しでも、自分の名前を残したい！』そんな小さな野望を抱きながら、私は日々研究しています。

学部4年 益子 高章

栃木市出身の私は祖父母がイチゴ農家だったため、幼い頃から身近なイチゴに興味を持ちイチゴに携わる研究がしたくこの研究室に入りました。

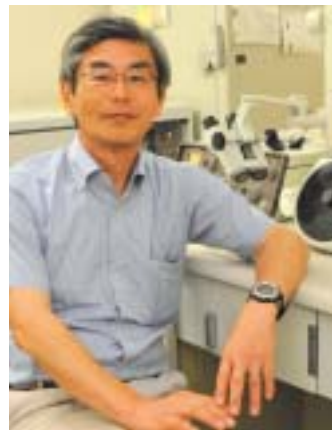
実際にイチゴを育てながら研究する日々は失敗もありますが、花が咲いて果実を実らせた時は我が子が生まれたかのように嬉しかったです。そんな私の好きな食べ物はこちらのイチゴです！！

学部4年 出井 沙織



教員から

人間と同じように、植物も病気にかかります。病気による農作物の減収はアメリカだけで1年間に1兆円以上で、ウイルス病による農作物の減収は日本だけで数百億円と試算されています。もし少しでも病害を減らせるならば、今後予想される爆発的人口増加による食糧問題の解決の一助となるでしょう。また最近では、無農薬や減農薬で病気を防除する方法の確立というエコ農法も求められています。



人間はウイルスに感染しないように予防接種をします。そこで、植物病理学研究室（略称：植病）では、安定した安全な食糧供給を目指して、農作物のウイルス病に関する研究を行い、なかでも植物ウイルスに対するワクチンの開発で大きな成果を上げています。

教授 夏秋 知英



植病では、植物に病気を起こすウイルス（植物ウイルス）の研究をしています。例えば、ウイルスの遺伝子を解析することで病気を起こすメカニズムを明らかにしたり、病気の発生を防ぐための方法を開発したりしています。

最近ではトマトの黄化葉巻病の防除法を確立しようと民間企業と共同で研究を行っています。黄化葉巻病は日本だけでなく世界中で大発生しているので、もし防除法が確立すれば世界規模での貢献ができるのではないかと期待していますが、そう簡単に物事は進まず、あれこれ悩みながら日々格闘しています。

その他、栃木県の特産品であるイチゴやビール麦なども扱っていますので、もし興味があれば我々と一緒に研究してみませんか？

准教授 西川 尚志

授業概要

世界や日本において、地球市民社会や国際NGOの役割が大きくなっています。「地球市民社会論」では、地球市民社会を取り上げ、その概念、特徴、起源と歴史、発展の流れ、先進国・途上国・日本の地球市民社会について論じ、地球市民社会の基礎と実践を理解することを目標としています。

Welcome to 授業



学生から

将来、グローバルな視点で物事を考える仕事に就きたいと思っています。海外に出たとき、その国の文化や宗教の違いを理解していなければうまくやっていけませんし、国家（政府）間のレベルでは解決することが難しい問題を、市民レベルで理解、協力し合うことで解決していこうとする地球市民社会の考え方を持つことが必要だと思います。



国際文化学科1年 高田 光紀

私は、将来、アフリカの貧困を解決する活動に携わりたいと思っています。宇都宮大学国際学部に入学することを決めたのも、アフリカの貧困を解決しようとしている先生が国際学部にいるからです。

実際にNGOで活動したいと思っていますので、NGOの成り立ちや意義、役割などを学べるこの授業は、自分にぴったりの授業です。

重田先生の授業は他にも受けているのですが、重田先生自身、実際にNGOで活動した経験があって、その時の話が聞けて、とても参考になっています。自分にもできるかな、と思いながら勉強しています。

国際社会学科1年 大平 太



教員から

21世紀を生きる人類は、開発と環境破壊、人権の侵害、平和と戦争、宗教と文化対立といった地球規模の問題に直面しています。これらの問題を解決するために、いま、「地球市民社会」の役割が注目されています。

地球市民社会とは、発展途上国の現場へ人道支援や開発支援を行う国際NGOや市民団体などで、「共生のための世界を目指す市民社会」のことです。そして、「市民社会」とは、NGO・NPO、協同組合、大学など教育関係機関、社会福祉団体、市民運動団体など非政府・非営利セクターに入る団体です。政府（国家）=第1セクター、企業（市場）=第2セクターと並ぶ重要な第3のセクターになっています。

欧米に比べると日本の第3セクターの存在感は、まだまだ小さいですが、阪神淡路大震災、東日本大震災を機に、市民（社会）のボランティア活動、救済活動が活発に行われるようになり、政府や企業からも独立した市民社会、第3セクターの存在感は高まってきています。

この授業では、地球市民社会が地球規模の問題の解決を目指す重要な担い手であることを理解していただきたい。学生自らが、世界や日本の市民社会の構成員であることを認識し、将来、NGOやNPOを含めた市民社会を支える担い手になってもらいたいと考えています。

国際社会学科 教授 重田 康博

